

# なかつか 亮



## ついに実現！ 認可保育園が2園開設 住民と共産党の運動が力に



品川区は来年4月に私立の認可保育園を2園開設(定員189人)すると発表。認可園増設を求める住民と共産党の運動が実を結びました。今年4月、保育園に入れなかった子どもは494人。まだまだ足りません。引き続き、認可園増設に全力をつくします。

### 保育園が必要

「保育園に入れなければ仕事を辞めるしかない。私の年齢で一度仕事を失うと、再就職はかなり厳しい(35歳女性)」と話します。この方は第一子は認可園に入園できましたが、第二子は入園できず仕方なく職場から近

い他区の認証保育園。毎朝、兄弟を別々の保育園に行き、そして職場へ。「雨の日は子どもがぐずるので大変:」と。昨年夏には第3子目を妊娠。春に無事出産し、来年4月に0歳児と3歳児の認可園入園に期待し、職場復帰を考えています。

「3人目がこの時期にと少し困ったが、新たな命に感謝し、夫婦で『この子のためならばんばれる』と決意します。でも保育園が心配です。さすがに夫の収入だけでは生活できないし、私も大学で学

んだ専門分野を活かせる今の仕事を続けたいし、やっぱり働きたいから子育てするには保育園が絶対必要です」と話します。

### 私の時代と同じかむしろ悪化してる

保育園に入れない状況に近所の60代女性は「私が若かったころも保育園に入れず、毎日子どもを背負って区役所に。保育園に入るのにとても苦労した。30年たった今でも働き続けたいと願う女性が同じように苦しんでいるとは悲しいです」と話します。

裏へ

## 認可園の増設を

共産党は区民と力をあわせて認可園増設を求め続けてきました。

ところが品川区は認可園増設でなく「詰め込み」で乗り切る考えが基本。今年も認可園数は増えないのに、受け入れは昨年比390人も増やしたため、1.5倍に膨れ上がった乳児クラスや国の最低基準を下回る保育室も。園では「トイレ渋滞」がおき、おむつからパンツに変わる子どもの成長に欠かせない大事なトイレトレーニングに時間をかけられない事態も生まれています。

年間にも認可園増設は明記されていません。いよいよ増設に向けた方針転換が必要です。

## 区議会では

区議会はとうていどうしようか。今年6月、新婦人品川支部は「詰め込みではなく認可保育園増設で待機児解消を求



める請願」を区議会に提出しました。

文教委員会で区は「認可保育園の大幅な増設で保育事業を満たしていくということとは考えてはおりません」と改めて主張。自民党は「10年・20年後を考

えると認可保育園ありきの対策でいいのか」と区を擁護し、自民、公明、民主、無所属区議は請願に反対しました。

共産党は「詰め込みではなく、認可保育園の増設計画を立てるべき」と主張し賛成しました。



## 運動が力に

今回の増設はこのような住民運動や共産党の論戦が実を結んだもの。新たに設置される私立認可園は南品川に定員99名、中延に定員90名です。

「詰め込み」は限界です。待機児解消に向け、認可園をさらに増設させましょう。

なかつか亮

## 大震災から区民の“いのち” “くらし” 守れ！ 住宅耐震化の支援充実へ、「見直し」はじまる

大震災から区民の“いのち” “くらし” を守る支援策が急がれています。共産党は住宅の耐震診断、耐震補強への助成を主張。制度は06年7月から始まりましたが、「助成額が少ない」「補助対象となる工事対象が厳しい」などの理由から住宅耐震化が遅れていました。共産党は「進まない理由を調べ、実態に見合った補助額の増額、簡易補強への助成、マンションも助成対象に」と主張してきました。

9月17日の建設委員会で、区は「進んでいない状況を考慮し、制度改善に向け見直しを行う」と説明。具体的な内容はこれからですが、区は来年度予算化に向け、木造住宅の耐震助成増額、簡易補強への助成、マンション耐震助成などについても検討する考えです。



住宅耐震化は、あわせて地元の建設組合から「区内の仕事づくり」としても期待されています。支援策充実にもむけ全力でがんばります。